

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

SCMSI カレッジ生急増の背景

— レイクセブ町唯一の高等教育機関として —

前号でお伝えのように、SCMSIが運営するカレッジ部門は、学生数が急増（注）、2年ほど前に、高床式校舎の1階部分の一部を間仕切りして教室を増設しましたが、なお足りない状態です。

SCMSI 校は、先住民族の価値観を尊重する教育を施すという建学の精神に基づき、カレッジでも、伝統文化の教科履修が必須です。一方で、レイクセブ町唯一の高等教育機関として、ビサヤ人等の非先住民族の入学や転入も増えています。質の高い専門教育を、都市部の私立カレッジの3分の1ほどの授業料（下段の参照）で受けられるため、貧困家庭の子どもたちには、唯一進学可能な専門教育の場であることが、学生数急増の理由です。地域開発科だけの単科大学ですが、教職課程(初等教育)の単位取得が可能なことも人気の一つです。

急増する学生に対する教室不足の問題について、私たちにも協力要請があったことは、前号でも触れたとおりです。すでにオランダ等の支援を受けたのではと思っていたところ、8月に入ってから、改めて、1階部分の間仕切りによる教室増設に対する協力要請が届きました。

教育分野の助成金申請も考えて、SCMSI カレッジの存在意義を数値で確認したいと、カレッジ卒業生動向などの資料をお願いしました。今後のSCMSI 校支援を考える上でも、参考になると思います。

* 2014年3月卒業生55名の動向（うち教職単位取得者25名）

SCMSI 校に就職（教師、事務職員）	5名
町役場に就職	1名
州の役所に就職	2名
レイクセブや近隣の町のホテルや店舗に就職	11名
農業（父母の手助け）	15名
その他（結婚、乗合バイク運転手ほか）	21名

* レイクセブ町の公立、私立学校教師に占める

SCMSI校卒業生の割合：40%

* 2014年度カレッジ在學生548名（9月末時点）の内訳
チボリ等先住民族471名/86%、レイクセブ町内在住87%

* 履修単位あたり授業料比較（ペソ）

私立ノートルダムマーベル大学	335	
SCMSI カレッジ	非先住民族	133
	チボリ等先住民族	85

* 注：お詫び カレッジ学生増加数の訂正：前78号P3の見出しで、カレッジ生増加率は43% としましたが、これは2年前との比較で、昨年度との比較では17%増です。お詫びして訂正いたします。

— 外部カレッジ進学の子より —

今年3月にSCMSIのハイスクール2校を卒業の里子の大半は、そのままSCMSIカレッジに進学しましたが、単科大学（左欄参照）のため、10名余りは、外部カレッジ進学を選択しました。そして、その多くは、家族、親族の支援、または、公的奨学金等を受けて学業を継続しています。2名が引き続き里親のご支援（月3000円のカレッジ奨学金）をいただいています。その一人、セルビン君の里親に宛てた手紙を紹介させていただきます。（抄訳）

親愛なるお母さん、お元気ですか。新しいステップを踏み出した僕の傍らに、今もいて下さってとても幸せで感謝しています。今、ジェネラルサントス市のラモンマグサイサイ記念大学で犯罪学を学んでいます。将来はよい警察官になって国民に奉仕したいと思っています。家から87kmも離れているので、カレッジの近くに部屋を借りています。友達もたくさんできましたが、勉学を優先しています。レイクセブと気候が違うためか先週風邪をひきました。あなたのご支援に心より感謝するとともに、神のご加護をお祈りしています。それではまた。

あなたの里子、セルビン・デリロンより

— 子どもたちの健康管理のための支援 —

私たちのSCMSIを通じての支援は、原則として学校運営や里子の教育費に限定していますが、昨年に引き続き、一部の里親会員から医療支援にという寄付をいただきましたので、各学校における歯科検診、虫下し剤投与、血液型検査等の活動を支援しました。

レイクセブ町の中心部には公立病院があり、内科や歯科医も常駐するなど、他の先住民族の村に比べると恵まれています。しかし、学校での集団検診は、子どもたちが健康で勉学に専心する上で、重要な役割を果たしています。今後も資金面で可能であれば、私たちの教育支援を補完するためにも続けていきたいと思っています。



公立病院の歯科医
ガロールさんによる検診
（7月末、レムエヘック
ハイスクールにて）